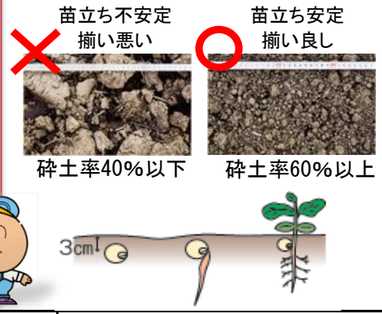
令和6年度 いなば大豆栽培こよみ

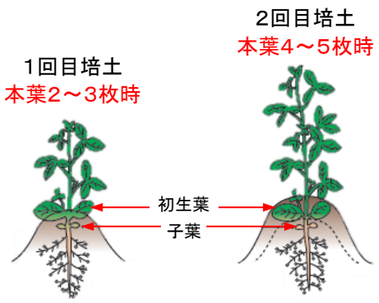
目　標　単収200kg／10a

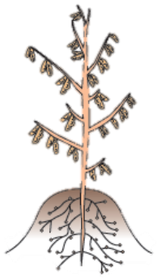
いなば農業技術者協議会

生育のイメージ

最重点技術対策
- 土づくりの徹底
- 排水の良いほ場づくり
- 適正なは種作業
- 雑草の対策
- 的確な中耕培土
- 干ばつ回避の畦間かん水
- 病害虫防除の徹底
- 適正な収穫作業







5月	6月	7月	8月	9月	10月
土づくり・排水対策	は種適期	発芽期	草丈・節数増加期	花芽分化期	開花期 ～ 莢伸長期
子実肥大期	黄葉期～落葉期	成熟期			

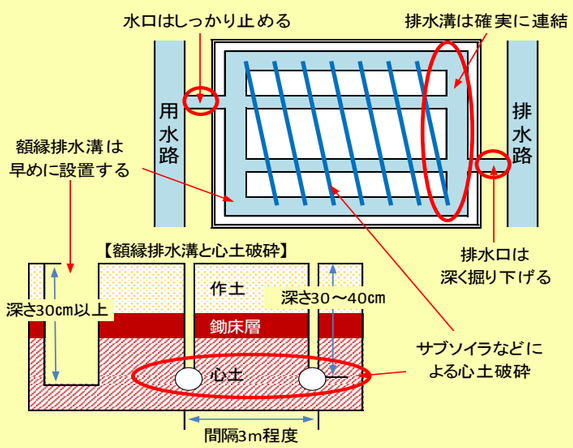
作業名

- ①排水対策
- ②土づくり
- ③種子塗抹処理
- ④耕起・畦立・は種
- ⑤初期除草剤
- 除草剤による除草
- ⑥1回目培土
- ⑥2回目培土
- ⑧1回目防除
- ⑦畦間かん水
- ⑧2回目防除
- 雑草の抜き取り 汚損粒の防止
- ⑨収穫
- ⑩緑肥作物

栽培技術のポイント

①排水対策

前年秋～4月まで額縁排水や心土破砕を行う



②土づくり

- 土壌pH6.0～6.5を確保するためアルカリ資材を散布する
- 堆肥等、有機物の積極的な施用で地力増進を図る

資材	10aあたり施用量	備考
砂状ケイカル	100kg以上	酸度矯正
牛ふん	1t	地力の向上
醗酵ケイフン	100～200kg	

③種子塗抹処理

種子1kgあたり

薬剤名	使用量	備考
クルーザーMAXX	8mℓ	アブラムシ類・ネキリムシ類 フタスジヒメハムシ・茎疫病 紫斑病・タネバエ等

※は種する2～3日前に行う

④耕起・畦立・は種

- 耕起～は種の一連の作業は、ほ場が乾いた状態で1日で実施する
- 耕起の深さは15cm以上を目標とし、根域を広げる
- 砕土率は60%以上の確保や畦立同時播種による苗立の安定化
- 播種深度3cmを目標とし、浅まき、深まきに注意する

基肥	10aあたり施用量	備考
基肥084	20kg （堆肥・鶏糞等施用の場合10kg） （麦跡30kg）	N-P-K（10－18－24）

- 早すぎる播種を避け適正な栽植本数を確保する

品種	は種時期	栽植本数 本／10a	は種量(中粒) kg／10a
えんれいのそら	5月26日～6月10日	14,000～16,000	4.3～4.9
	6月11日～20日	16,000～18,000	4.9～5.5
シュウレイ	5月26日～6月10日	12,000～15,000	3.5～4.3
	6月11日～20日	15,000～18,000	4.3～5.2

※種子について令和6年産用種子は全量「中粒」となります。

⑤初期除草剤（土壌処理除草剤）

- は種後～出芽前、土壌が湿っている間に散布する
- 難防除雑草は、ほ場周辺で早期に除去しましょう

マルバルコウ

イヌホウズキ

薬剤名	10aあたり散布量	総使用回数
トレファノサイド粒剤2.5	4～6kg	1回
プロールプラス乳剤	400～600mℓ／水75～150ℓ	2回

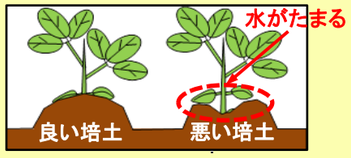
（茎葉処理除草剤）

薬剤名	対象雑草	散布時期	10aあたり散布量	総使用回数
ポルトフロアブル	イネ科1年生雑草（スズメノカタビラ除く）	雑草3～10葉期【雑草茎葉・全面散布】収穫30日前まで	200～300mℓ（水50～100ℓ）	1回
パワーガイザー乳剤	1年生雑草	出芽直前～3葉期まで（雑草発生始期～2葉期）【雑草茎葉・畦間処理】収穫30日前まで	200～300mℓ（水100ℓ）	1回
バスタ液剤	1年生雑草	大豆5葉期～雑草生育期【畦間・株間処理】収穫28日前まで	300～500mℓ（水100～150ℓ）	3回
ダイロンゾル＋ザクサ液剤	1年生雑草	大豆5葉期～雑草生育期【畦間処理】収穫30日前まで	ﾀﾞｲﾛﾝｿﾞﾙ100ml ｻﾞｸｻ液剤400ml（水100ℓ）	1回
大豆バサグラン液剤	1年生雑草（イネ科を除く）雑草生育初期～6葉期	【畦間処理】大豆の生育期 収穫45日前まで	300～500mℓ（水100ℓ）	1回
		【全面散布】大豆2葉期～開花前 収穫45日前まで	100～150mℓ（水100ℓ）	
アタックショット乳剤	1年生広葉雑草	大豆2葉期～開花前【全面散布】混用不可 収穫45日前まで	30～50mℓ（水100ℓ）	1回

⑥中耕・培土

培土は株元までしっかりと！　2回培土の完全実施！！

培土の4つの効果
1. 雑草を抑える
2. 倒伏を防ぐ
3. 根と根粒菌を増やす
4. 湿害を防止する



⑦畦間かん水

- 開花期～9月上旬頃まで、3日以上晴天が続いたら、土壌の乾きに応じて畦間かん水を行う
- ほ場全体に水が行き届いたら、水口を止め速やかに排水する

⑧病害虫防除

- 『基本防除』は確実に2回行う
- 『随時防除』病害虫の発生状況に応じて速やかに行う

イチモンジカメムシ

紫斑病

ウコンメイガによる被害

農薬の使用基準を守り、周辺に飛散しないように注意しましょう

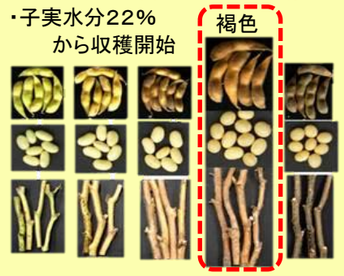
	体系	対象病害虫	防除時期	薬剤名	10aあたり散布量		総使用回数	収穫前日数
基本防除	粉剤	紫斑病、フタスジヒメハムシ、カメムシ類、マメシンクイガ、ハスモンヨトウ、ダイズサヤタマバエ	1回目（8月上旬）	スミチオン粉剤3DL	4kg		2回	21日前まで
			※2回目（8月中下旬）	トライトレボン粉剤DL	3～4kg		2回	14日前まで
	液剤	紫斑病・カメムシ類、ウコンノメイガ、マメシンクイガ、ハスモンヨトウ	1回目（8月上旬）	カスケード乳剤	37.5mℓ	水150ℓ	2回	7日前まで
				トライフロアブル	150mℓ		2回	7日前まで
			※2回目（8月中下旬）	アミスタートレボンSE	150mℓ	水150ℓ	2回	14日前まで

※2回目の防除は、1回目の10日後頃

随時防除	葉焼病	7月下旬頃	Zボルドー	300mℓ	水150ℓ	－	－
	ハダニ	7月下旬～	マラソン粉剤3	3kg		3回以内	7日前まで
			マラソン乳剤	50mℓ	水150ℓ	3回以内	7日前まで
	アブラムシ類 カメムシ類	7月下旬～	ダントツ粉剤DL	4kg		3回以内	7日前まで
			ダントツフロアブル	30～60ml	水150ℓ	3回以内	7日前まで
	ウコンノメイガ	8月上旬	プレバソンフロアブル5	37.5mℓ	水150ℓ	2回以内	7日前まで

⑨収穫

- 莢色の熟色（褐色）が収穫時期
- 子実水分22%から収穫開始



- ●地際から10cmの刈取り高さ
- ●収穫前の雑草の抜き取り

⑩緑肥作物（翌年度作付ほ場）

緑肥	は種時期	は種量
ヘアリーベッチ	9～10月	3～4kg／10a